

乳がん 高度検診・治療センター NEW-す NO.41

2017.10

乳がんの転移と再発(1)

乳がんに限ったことではありませんが、転移や再発ががんの恐れられる最大の理由です。転移と再発はしばしば混同され、また多くの場合転移=再発ですが、厳密にはこの両者の意味合いは異なり同義語ではありません。今回は乳がんの転移と再発について解説します。

✂ 転移と再発

「転移」とは乳がんがその発生母地である乳房からリンパ液や血液の流れに乗って、乳房以外に広がることを指します。わきの下や鎖骨上などリンパ節への「リンパ行性転移」と、肺、骨、肝臓、脳など離れた臓器への「遠隔転移（血行性転移）」とに分けられます。乳がんが見つかった時点で、しこりの大きさや転移の有無により乳がんの進み具合を0～Ⅳ期に分類しますが、リンパ節転移があればⅡ～Ⅲ期、遠隔転移があればⅣ期となります。

一方、「再発」とは乳がんが治療によっていったん見かけ上にせよ消失したのち再び出現することを言います。再発部位により以下のように分類されます。

表<乳がんの再発部位>

1. 乳房温存後の同側の乳房
2. 乳房切除術後の胸壁
3. わきの下や鎖骨の上などのリンパ節
4. 肺、骨、肝臓、脳、など他の臓器

したがって転移、再発とも類似した部位へのがんの広がり指しますが、再発とは時間的要素が加味された用語と言えます。ですからがんが見つかった時点で遠隔転移を伴うⅣ期乳がんは再発ではありませんし、再発のうち表の1、2は転移ではありません。また、手術をした側と反対側の乳房にがんが発生することがありますが、これはほとんどの場合再発ではなく新たにがんが発生したものです。

✂ なぜ再発するのか

一部の乳がんでは早期から目には見えないレベルのがん細胞が体のどこかに潜んでいることがあります。初期治療において、手術や放射線療法以外に術前や術後の薬物療法を行い微小な転移巣も攻撃するのですが、生き残ったがん細胞が再び芽をふくのが再発です。したがって肺や肝臓への転移巣のがん組織は乳がん由来であり、肺がんや肝がんとは異なります。乳がん以外のがんでは初回の治療後5年以降の再発は少ないのですが、乳がんでは5年以降の晩期再発も多いのが特徴です。

次号では、引き続き「転移と再発」をとりあげ、転移・再発乳がんの治療や、再発チェックのための検査の意義などについて解説します。

